

# 児童発達支援自己評価表

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 3 月 25 日

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		・活動内容に応じて、園庭やテラス、また廊下も利用し工夫している。 ・保護者との個別懇談（支援計画開示等）が重なることもあり部屋が足りないことがある。
	2	職員の配置数は適切であるか	<input type="radio"/>		・職員が全員出勤している状態では適切であるが、研修や休暇が入ると厳しい状況になることがある。また、途中入所に対応しきれないことがある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		・子ども達の必要に応じて、室内の玩具の量を調整したり、遊具のレイアウトをあえて変えないようにしたりしている。また、子どものケガの原因を把握し、新たに養生を施したり補強したりし、安全に過ごせるようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		・毎日、療育終了後には丁寧に清掃を行っている。また、定時にドアノブやスイッチ等の消毒を行ったり、毎月1日15日に安全点検を行ったりし、清潔な環境を維持向上している。
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		・年間を通して各種委員会（学習、保健安全、食事、園芸）、また行事ごとの実行委員会に全職員が分担して参画し、業務改善を進めている。 ・朝礼を利用し、必要な事項について共有を図っている。クラスでは、準備の時間や掃除中にも報告したり相談したりしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		・基準に則った評価の他にも独自の保護者アンケートを実施している。また、行事や学習会毎にも感想を依頼し、意向の把握や業務改善につなげている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		・評価表は書面で開示すると共にHPに公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<input type="radio"/>		・センター全体の苦情解決連絡協議会、虐待防止検討委員会にて意見をいただき、改善につなげている。しかし、令和5年度は、協力者会議が未実施だった。運営や業務内容全体の評価のためにも次年度は実施したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		・学習委員会が年間計画を立てて実施している。コロナ以来増えたオンラインによる研修や、講師によるリアル開催研修等、専門的な研修を随時受講している。オンライン研修では昨年度配置された機材を有効活用することで研修の機会が増え、多くの職員のスキルアップにつながっている。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		・相談支援事業所と連携をもち、面接等から児童発達支援において必要な支援を吟味している。また児童発達支援管理責任者がクラス会議に参加し、客観的かつ療育で大切にしていることを確認し計画している。 ・PTOTからの助言や聾話学校、盲学校に個別相談や学習会で連携をもっている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		・発達相談員による発達相談を年2回実施し、一人一人の発達状況を把握した上で日頃の療育と照らし合わせながら、子ども理解を深め共有している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		・家族支援を意識して記入できるように、支援計画の様式を見直し作成している。 保護者支援についての学習会を年に数回実施して子育てに前向きに向かえる支援を意識している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		・定期的にあセスメント会議を開き、計画に沿った支援が行われているか、確認しながらすすめている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		・行事は実行委員会形式で企画を検討したり、クラス会議やねらい会議で月の計画を検討したりしている。クラス会議には児発管や他職種の職員が参加、ねらい会議はクラスの代表が参加し検討した後、回覧して全職員に知らせている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		・子どもの必要に応じて計画しつつ、時々興味や季節感を取り入れながら行っている。また、保育所保育指針等を意識した工夫を適宜行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		・一人一人に合わせた支援とクラスの中での育ちの両方をポイントをおさえて計画を作成し、活動の中でも個別への対応やあそび方の支援を変えている。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		・朝礼で全職員に確認し、その後各クラスで詳しい活動内容のねらいや流れ、担当など話し合っている。	

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	・その日の支援の振り返りを職員間で行い、反省を記録に残し共有している。定期的にクラス会議を行い、子どもの状況を些細なことも共有している。気づいた事は短い時間でも工夫して朝礼で発信し全職員周知を大切にしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	・日々の支援に関する記録をとり、次の手立てになるようにしている。記録の量が多くなりすぎているため、ポイントを絞った書き方を検討中である。
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	・定期的にモニタリングを行い、クラスと児発管が共有し療育内容や個別支援計画にいかしている。また、相談支援事業所とも連携を図り、計画に反映している。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	・必要に応じて関係機関と連携している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	・滋賀県小児保健医療センター、盲学校、聾話学校などと連携をとり評価を受けている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	・保護者と相談しながら必要に応じて、同行受診を実施したり、保護者に同意を得て連携したりしている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・個人票を作成し保護者に引継ぎ内容を開示して、文書での引継ぎを行うと共に、園での様子を見ていただく機会を設けている。卒園児訪問、保育所等訪問で移行先の園と相互理解を図っている。学習会や療育実践報告会などを開催案内し、学びあう機会を設けている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・見学や体験に同行したり、学校主催の引継ぎ会に参加したり、来園依頼して園の姿を共有しながら引継いだり、入学後に卒園児訪問を実施したりし、情報共有と相互理解を図っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	・滋賀県障害児通所施設連絡協議会にて、市町の公立児童発達支援事業所や小児保健医療センターとも連絡を取り合い研修会や会議を行っている(オンライン研修も含む)。また、大津市民病院の専門職(OT,PT)とSTが交流したり、大津市自立支援協議会就学前部会にて民間児童発達支援事業所と現状の意見交流を行ったりしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	・子どもたちが交流することで互いに影響し合うこと、また子どもの発達理解や職員交流を目的に、各クラスと地域の園7園と交流保育を計画的に行っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	・自立支援協議会就学前部会では当園が座長を務め、また中南部子育てネットワーク会議等へも参加している
保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	・親子保育を週2回実施、クラス懇談や個別懇談を定期的に行っている。また、連絡ノートを双方が記入することで、子どもの姿を共有することも大切にしている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	・学習会は数クラス合同で行ったり、オンライン研修やビデオ視聴学習などで、工夫しながら実施した。お母さんお父さんそれぞれにOBを招いて語ってもらったり、質疑応答の時間を設けたりした。また発達相談員によるグループワークも取り入れている。さらに次年度からはペアレントプログラムの実施を予定している。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	・契約時の重要事項説明書にて説明している。また療育開始後すぐに療育オリエンテーションを実施し、冊子を配布して説明を行っている。運営規定については掲示をして周知に努めている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	・計画作成時に説明をしながら保護者と共有し、思いや意見を取り入れ計画に反映し、同意を得て進めている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	・計画的に個別懇談を実施すると共に、発達相談員や管理栄養士、理学療法士、作業療法士、医師などの専門職との相談につなげている(個別対応も含む)。
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	・5月にコロナ禍が明け、保護者室における保護者同士の交流が盛んになった。また父母の会の活動の中で保護者同士が協力し合うことができた。また、OB交流会の開催や行事の中でも保護者同士が連携できるよう支援を進めている。	

	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・保護者からの相談や申し入れについては、園内で協議することを基本に迅速な対応をすすめている。必要に応じて個別懇談をしたり、親子保育の場でも子育てなどの相談に応じられるようにしている。電話での相談も含め丁寧に対応すると共に情報共有している。苦情がある場合はシートの記入をしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・園便り・カレンダーを毎月発行し、クラス便りについては随時発行。どの行事についてもお知らせやニュースとして必要に応じて発行している。緊急を要する連絡の場合は、一斉メール配信を用いている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・事務処理ミスがないよう、書類の複数確認を強化している。また、個人情報の取り扱いについての研修を積極的に受講し、職員の意識を高めている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・ことばだけに頼らず、子どもの表情や態度、しぐさ、発声等、その子らしい表出を活かしてコミュニケーションを図るようにしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・以前はセンター全体の「おまつりはうす」に地域住民を招待してきたが、コロナ禍からは実施していない。通信などで発信している。センター主催の会議には、父母の会からも出席していただく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・大津市の危機管理マニュアル等があり、常にその観点で対応している。健康安全委員会は月1回程度開催するとともに、学習会を実施して対応を確認している。やまびこ総合支援センターとして感染対策委員会を開催しており、情報共有と対応確認を行っている。また、センター全体で協議を重ね、BCP計画を作成した。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・年度当初に避難訓練計画を作成し、月1回避難訓練を実施している。センター全体では、各階で訓練を実施している。保護者が参加の訓練も実施し協力を得ている。子どもの負担になりすぎないように、避難集合は短時間に納めるようにしている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・救急カードを作成し、保護者に提出していただいている。医師からの指示書を元に、ナースが主に対応。受け入れ時に確認したことや緊急対応について、全職員で共有している。また、その内容に変更があったときには対応も含め全職員間で共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・医師からの指示書を元に対応している。食事委員会とは別に除去食会議（担任、保健、栄養、調理、事務所が参加）を実施している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・インシデントとヒヤリハットの用紙を作成しまとめている。朝礼でも報告し、全職員で共有して再発防止に努めている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止に関わる指針を作成、年に数回会議を開き、研修を行って全職員で共有を図っている。毎月のリーダー会議にて事業や対応の点検を行い、意識を高めている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・支援計画には記載はしていないが、契約時に保護者には説明を行っている。また、全職員を対象に研修を行い、どのような場合が身体拘束にあたるのか等の意識を高めている。